

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

令和7年2月1日
第 68 号
発行 者 則 幸
神 山 則 幸

「褒める」という行為



副支部長 高木 宏幸

先日、航空機を利用する機会があった。備え付けてある航空会社の

機関紙のページをめくってみると、「褒める文化」という記事が目にとまった。

円滑なコミュニケーションを目的とし、ビジネス用語で「ほうれんそうのおひたし」が使用されるとのこと。

それは、部下による「ほうれんそう」の「報告(ほう)」「連絡(れん)」「相談(そう)」に対して、上司が「おひたし」の「怒らない(お)」「否定しない(ひ)」「助ける(た)」「必要に応じ」指示する(し)で返すというものである。そして、ここに「褒める」とい

うキーワードを加えることで、さらに良好な関係が培われるということである。

なるほど、会社の上司と部下との関係だけでなく、組織を機能していくということでは、学校においても同様のことが言える。

しかしながら、学校において、教職員には「報告・連絡・相談」について、その大切さを説いてい

学びを 自分の人生や

社会のために生かすこと

朝霞班 谷 眞弓



未来を創る子供達に、学習指導要領が目指す資質能力は、生きて

働く知識技能、未知の状況にも対応する思考力判断力表現力、そして学びを人生や社会に生かそうと

だが、上司として、「おひたし」でどれだけ返すことができたか、まして、「褒める」ということができたか、反省しきりである。

研修会等で先輩方から度々紹介された、山本五十六の名言を思い出す。「やってみせ、言つて聞かせてさせてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」である。

いずれにしても、会社であれ、学校であれ、地域社会であれ、家庭であれ、コミュニケーションなくして、その機能を果たせないことは誰もが認めるところである。

とりわけ、その人の良さを認める、「褒める」という行為は、コミュニケーションを図っていくうえで、最も大切な行為の一つであるように思う。

を感じる。そして不透明な未来への不安を吹き飛ばす思いで次の十年間の生き方を想い描く。六十年代はやりたかった様々な趣味にトライする一方でいくつかの仕事も続けてきた。結局どれもやはり子供の教育に係る仕事である。私が学びを生かすことができる唯一の場は子供達と共にある場なのだと感じていた。合間をみてそこそこ旅行にもコンサートにも美術展にも行っている。思えば六十年代、よく元気に活動できたものだと思う。

今のところこの生活に納得しつつ七十代もできるところまでこんな調子でいってみようかなと思つた。七十代こそ、これまで出会った多くの方々から学んだこと、自ら学んだこと、これらをなんらかの形で自分の人生や社会のために生かしていきたい。それが今自分が考える自分の幸せの形なのだと思う。頑張りすぎないで少し頑張りながらこの幸せの形を創り続けていきたい。

最後にこの場を借りて、在職中お世話になった諸先輩同僚後輩の皆様にご心より感謝の意をお伝えしたいと思う。皆様との出会いこそが何よりも学びであったと思つた。

最後

最後

最後

最後

会員短 信

社会的自立をめざして

川口班 高田 信一郎

現在、学校生活への不適応を示し家に引きこもる、あるいは引きこもりがちな児童生徒の家庭を訪問する相談員として四年目となる。

「学校復帰」のみを目標とするのではなく自主性の伸長や社会性の発達を促すため、個に応じた相談を本人や保護者と共に行い、社会的自立をめざしている。その結果、一日中ベッドの中にいた子が昼間起きていたり、近くの公園で簡単な運動を一緒にしたりと、はた目から見ると何気ない変化に喜びと誇りをもって仕事をしている。

二つの仕事

草加班 益岡 和正

退職した翌年に妻が急逝し、教育関係の仕事を辞めました。現在は、自治会と直売所の役員をしています。コロナも落ちついて二年前から様々な活動が再開されました。地元の夏祭りも復活して地域の皆さんも喜んでいきます。自治会の活動では、地域防災と防犯に力を入れていきます。高齢化が進んで

いるので、大災害に住民の安全を確認する「無事タオル」を全家庭に配布しました。また、直売所の各種事業に参加し、会員の皆さんとの交流を楽しんでいます。

伴走者について

朝霞班 菅野 潤一

定年退職後、再任用校長、初任者指導教諭として四年間勤務した。昨年度より大学で教員を目指している学生を指導している。指導によって成長していく姿を目の当たりにし、やりがいを感じている。そして、四月からの教員生活への期待や不安を胸に卒業していく学生に、子供の未来を創る教員としての期待を込めて、「あなたなら大丈夫!」とエールを送っている。もうしばらく、教員を目指している学生の伴走者として、走り続けようと考えている。

日本を旅する

川口班 柳田 和子

退職して早八年、日本各地への旅を楽しんでいる。姫路城・熊本城など城巡りや奈良京都の神社仏閣。葵祭・祇園祭、青森ねぶた祭、秋田竿燈など伝統ある地域の祭…。桜の函館五稜郭、紅葉の京都嵐山。サイクリストの聖地しまなみ海

道も訪れた。来島海峡急流観潮船に乗り潮流を間近で体験。村上海賊ゆかりの島々を巡る。秩父夜祭、小江戸川越など県内の旅も魅力的。春秋の見沼代用水緑ウォーキングも楽しい。名所旧跡・歴史探訪、人との出会いは一期一会。

音楽大学で過ごす日々

蕨・戸田班 石橋 裕

音楽大学にて教職教養の授業を担当している。合間に学生と弾き歌いを楽しむなど音楽活動に関われることが楽しい。かつて私は音楽大学を断念し一般大学に入学した。各教室にグラランドピアノが配置され、音楽専攻の学生と過ごす環境は、夢実現でもある。

採用試験の三年次受験がはじまり教員養成も過渡期を迎えた。変化への対応は責務だが、人間性豊かな資質と教育力を高めるといふ教員養成の原点に重点をおくことができます。重要だと考えている。

新しい門出のために

朝霞班 安立 美智子

「校長先生!」と元気な声で呼ばれ、振り返ってみると、はじける笑顔が眩しい女性が手を振って立っています。私が勤務した小学校の教え子でしたが、昔の面影を

教育DXで実現する教育改革

戸田市教育委員会教育長 戸ヶ崎 勤



教育改革を実現するために教育DXの推進は

必要不可欠であり、特に教育データの活用が、改革を進めるためのトリガーになると考えています。

一 子供のセーフティネットのための教育データ活用

現在様々な教育改革を進めていますが、その一例として、SOSを発する子供を早期発見・支援するための教育データベースの活用事例を紹介します。

児童生徒の様々なデータを蓄積した教育総合データベースは令和四年度に産官学の有識者の力を借りながら設置しました。さらに、そのデータベースを基にして、不登校やいじめの兆候を早期に把握するための「ダッシュボード」も全小中学校に整備しました。

既に活用は進んでおり、先日ある校長先生から早期対応が適切にできたという話を伺いました。

その子は、これまで不登校傾向は見られなかった子で、データ上でSOSの警告アラートが出たの

残しつつ、立派に成長してしました。今日は成人式。私は彼女と昔の話をしながら振袖を着付け、二十歳の門出を見送ることができ、感動の瞬間を味わいました。

今は学校関係の仕事との二足のわらじですが、若者の新しい門出を祝うこの仕事に緊張感と大きな喜びを感じ、努力する毎日です。

花を咲かせる場所

川口班 高村 美恵

教育相談室で不登校支援の相談を始めて四年目になりました。現在、教育センターでは、小学二年生から中学三年生までの子供たちが学年の枠を超え一緒に活動しています。どの子も初めてここを訪れたときは別人のように表情が生き生きとして輝いて見えます。様々な背景の中で学校に行くことができなくなっても、新しい居場所を見つけ一生懸命自分の花を咲かせようとしている姿に私自身元気をもらっています。さらにたくさんのお花を咲かせたいと思います。

私の好きな時間

藤・戸田班 榎本 高之

仕事をやめてから健康的で、自分磨きができるフィットネスジムに通っています。様々なエクササ

イズの中から自分にあったものを選び、インストラクターのリードと流れる音楽に合わせて全力で体を動かすと心身ともにリフレッシュ。新たなことも「やればできる」と感じられる充実した時間です。

学ぶ私のお気に入りには、様々なジャンルのダンス、格闘技系の運動、マシンを使つての筋トレ。頑張つた分だけ変化していく自分の身体に驚くばかりです。

刺激を戴っています

川口班 戸ヶ崎幾江

現在、巡回教育相談で川口市内の小学校を時々訪問しています。七年前の定年退職時、もう学校に直接関わることはないと思つたのですが……想定外の現実に刺激を戴いています。毎回違う学校を訪ね、指導案なしで授業を参観（児童観察）し、部外者の立場で担任や保護者と面談を行うのは、新鮮な体験でもあります。自分が役に立っているかも？という思いも少し味わえています。また、訪問先でお元気に活躍されている先輩方に出会えることも、刺激になっています。

何の因果か

草加班 佐々木 毅

退職後、地元町会長のたつての

願いで、体育部長になりました。翌年、異例の人事で連合体育部長会副会長にされ、もれなくレク協理事にもなりました。

今年度の町会の役員改選で、副町会長兼務となり、また、地元の推挙で、県公安委員会から少年指導委員を委嘱され、川口地区の補導活動に加わるようになりました。

退職後、叔母の介護を理由に、楽隠居を決め込んでいた私ですが、毎週、会議や行事に追われる日々を送ることになりました。

学び直し

川口班 郡 豊

川口市立芝西中学校陽春分校（県内唯一の公立夜間中学校）の教壇に立ち一年半、すっかり午後五時半からの授業にも慣れました。

本年度より十月からも編入できるようになり、七十歳を越える生徒が「もう一度、中学校の勉強がしたい」と学び始めました。若い生徒に混じり学ぶ二人は、難しい学習内容に四苦八苦しながらも楽しそうに学んでいます。向学意欲が高く、集中して話を聞き、重要箇所をノートに書き留めるなど陽春分校の設立目的である「学び直し」を実践しています。

私もどの生徒にも分かる授業をしようと教材研究に励む毎日です。

で、半信半疑で見守っていたところ、休みがちになるタイムミングがあり、すぐに本人や保護者と対応し、事なきを得たという話です。

学級担任自身が直接子供のサインに気付くべきと思われるかもしれませんが、現在は昔よりも特別な支援を要する子が多く、未然防止は年々難しくなっています。

二 教育データ活用を推進する

組織づくり

様々な教育データは、教職員「共通言語」となるべきものと考えています。教育現場には、経験や勘や個人見解による所謂「3K」の指導が疑いなく行われています。3K指導のよきもありません。3K指導より様々なトラブルに繋がることも少なくありません。これからは、客観的な教育データを媒介とし、教職経験の長さ等に関わらず、若手もベテランも対等に子供の話が出来る教師文化が醸成されることを期待しています。

今後も教育データとデジタル技術をフル活用して、様々な教育手法の一層の変革等、真の教育DXにより「誰一人取り残されない教育」の実現を目指していきたいと考えています。

支部だより

教育推進協議会開催される

令和六年度現職・退職校長北足立南部支部教育推進協議会は十一月十九日(火)川口市立並木公館に於いて、現職小・中学校長三十九名、退職校長三十九名、来賓二名の参加を得て開催された。



開会に当たり、川口市教育委員会教育長井上清之様から、外国籍の児童・生徒の増加、三分の一の児童が外国籍の学校もあり、日本語指導に

苦労しているとの説明があった。また、働き方改革、部活動等の問題についての話もあった。本教育推進協議会に対しての励ましの言葉と期待を寄せているとのご挨拶を頂いた。

南部教育事務所副所長福士昌三様からは、不登校、教員一人一人の良さを生かした教育活動、採用試験等教育情勢とその対策にも触れた御講話とご挨拶を頂



いた。

推進協議会は、現職校長会を代表して志木市立志木第二小学校佐々木宰校長、草加市立新田中学校遠藤淳一校長、退職校長会代表川口班田代博人様より現下教育の諸課題について、実践に基づく貴重な発表があり、その後、質疑応答が行われどれも素晴らしい発表に賞賛の声があがった。

本年度はコロナ感染症も落ち着いてきたため久しぶりに懇親会を開くことができた。現職校長と退職校長が会食を通しての忌憚ない話し合いができたことは大きな成果であった。

なお、発表内容は「埼玉県退職校長会会報第百八十三号」に掲載される予定である。是非ご一読下さい。



ご冥福をお祈りします

原 富美夫様 (川口) 10/24 七十二歳

(12月1日現在)



(渡邊 秀人)

班だより

◆朝霞班

本年度は新入会員一名を迎え、会員百二十二名でスタートした。会員の親睦と連絡を図ることを目的に、事業を企画している。

◎定期総会

五月十一日、志木市民会館仮設会議室で開催した。

本年度より欠席の場合には委任状提出に改めたので総会資料を事前に送付した。また用紙のサイズをB5判からA4判にした。懇親会は五年ぶりに開催した。



◎会報発行

会員が自由に寄稿できる文集である、班四市の頭文字を組み合わせた『SWAN』は節目の第二十号になった。総会出欠に併せていただいた会員の近況を今回も掲載した。普段お会いできない方々の今が分かると思評である。

◎健康ハイキング

十一月十三日、飛鳥山公園の散策と「渋沢史料館」を中心に新紙幣で話題の渋沢栄一の生涯と事績に触れた。小春日和に恵まれ、昼食は紅葉が始まった公園で、購入

した弁当を食べながら近況を語り合った。写真は青淵文庫前で撮影。

◎検討事項

▽郵便料金改定に伴う会費への影響について

▽多くの会員が参加できる行事について

◎新年親睦懇親会

班の発展、新年が健康で良い年でありますようになどの願いを込めて、令和七年一月二十四日に予定している。



あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第六十八号をお届けします。ご多用の中、玉稿を賜りました各位に衷心から御礼申し上げます。北足立南部支部の各班の活動もコロナ禍前に戻りつつある様子、会員間の交流・親睦も活発になっています。どうぞよろしくお願いいたします。

県退職校長会のホームページも年々充実を図り、各支部・各班の情報積極的に紹介しております。一度県のホームページをご覧ください。

(加藤 正明)